

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
25

2012 霜月・師走



道院

身心を整え教えを実践する力を養う
拳禅一如、力愛不二の法門“金剛禅”

身心を整え教えを実践する力を養う 拳禪一如、力愛不二の法門 金剛禪

文／宗務部

金剛禪総本山少林寺は宗教法人として、宗教法人法に則^{のっと}って組織を運営し、社会的責務を果たしている。本号では、開祖の志をありのままに伝え、金剛禪運動の要となる「道院」の特徴、あり方を再確認する。今後の門信徒教化育成のお役に立てば幸いである。



浦田武尚代表法話
道院の役割、道院長の使命

金剛禪の修行法は靈肉^{いちじく}一如、力愛不二です。精神と肉体の絶えざる修行により漸次自己を改造し、新たな自己への成長、発展に導く、これが金剛禪の宗教としての他と大きく異なる独自性です。

具体的には、少林寺拳法の修練を行う易筋^{えききん}行^{ぎょう}と、坐禪・調息・思念を行う鎮魂行^{ちんこんぎょう}を両輪

の行とし、さらに法話でも門信徒を教化育成していきます。思想偏重ではありませんし、勝敗第一でもありません。技法の中にも教えがあるのです。自分の可能性を信じ、努力すれば誰もが社会のリーダーになれることを前提としています。

道院は、他人の幸せを考えて行動できる社会のリーダーを育て、世に送り出す場です。そのために人を見て法を説き、使命感を植え付けることが道院長の役目です。人は誰もが

「可能性の種子」を持っている、このことを気付かせるのが道院長なのです。

道院長の魅力に人は惹かれます。人格者、人づくりの手法となる貴重なものを持っている人がたくさん集まる道院とするためにも、道院長自身も修行者として、自己研鑽^{けんさん}を怠らず努めることが肝要です。そして、金剛禪が運動体として主義・主張をし続けるために、工夫を凝らして現代社会に合う布教活動を展開していくことが求められます。

真のリーダー育成を目指す

いつの時代、どの場所においても真のリーダーが求められる。国や社会やいろいろな組織でもその立場に立つリーダーの資質や能力によって大きな差が出るからだ。金剛禪でいう人づくりとは、社会に役立つリー

ダーを一人でも多く育成していくことである。

道院はリーダー育成の場である。リーダー育成の方法はさまざまであるが、多くの道院でとられている方法の一つに門信徒一人ひとりに何か

しらの役割を与えるというものがある。その役割の意義を説き、動機づけをし、門信徒が多くの成功体験を積めるように協力することで、自信と勇気を養わせるのである。特に、人から感謝される喜びは人間的成長を促す。たとえ最初は受動的だったとしても、やがて主体性や責任感が生まれてくるものだ。

リーダーシップとは、資質や能力だけではない。人をまとめ、率いる行動力を伴うものである。ふだんの訓練を積み重ねていくことによって、必ず統率力や指導力の養成につながるものである。

道院には老若男女さまざまな人が入門してくる。そのような中で、道院長は一人ひとりと向き合い（面授

面受)、その人の目線に立って、みずからの言葉で語り、行動で示すこ

とによって、導いていくのである
(対機説法)。

本当の強さ、慈悲心を育てる

金剛禅総本山少林寺は金剛禅思想の実践を通じて社会に貢献できる人材を育成していくことが使命である。「人間の心の改造と平和的手段によって地上天国を実現させよう」というのが、金剛禅の主張であり願

を日常の社会生活において実践していくことである。

金剛禅の信仰の中心はダーマ(宇宙の大霊力、最高の秩序、大いなるはたらき)である。自分はダーマの分霊をもつ霊止として存在している。さらに、自分だけでなくすべての人間はダーマの分霊をもつてこの世に生を受けた尊い存在である。この認識がダーマ信仰の根本になる。

今、現代の日本人にとって本当に必要なのは「心(魂)の教育」ではないだろうか。自分とは何か。人間の尊厳とは何か。時には悩み、あるいは悟る。一人ひとりがこれを深く思考する必要がある。

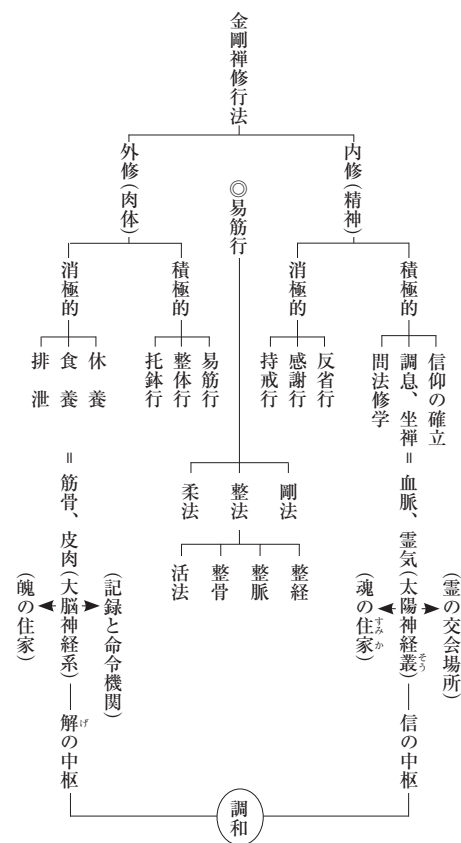
道院では、下図にあるように、金剛禅門信徒の修行法を通じて、自己の成長と他者への思いやりの心、思いを行動に移す力を養っていく。図からも分かるように「内修」と「外修」をバランスよく修行し、調和させていくことが重要である。

「易筋行」は少林寺拳法の技術修練のことであり、金剛禅の主流である



信仰の確立：儀式行事

《金剛禅門信徒の修行法》



ことから当然、図の中央に位置する。そのほかに、「整体行」、社会への奉仕という「托鉢行」、内修としての「信仰の確立」、「調息・坐禅」(鎮魂行)、「問法修学」も併せて行う。

また、内外共に消極的修行も見落としてはならない。「動」(積極的)に対する「静」(消極的)として、身心共に人づくり＝人格形成に重要な行である。

修行はあくまでも拳禅一如でなければならず、修行者としての信念と自覚のもと、片寄せることなく修行に取り組んでこそ意義がある。少

道院長も門信徒とともに成長する

金剛禅の指導者は、単に少林寺拳法の技術を教えているのではない。

林寺拳法を単なる武道やスポーツで終わらせないよう導いていくのが道院長の役目である。

世の中は成果主義や競争原理による利害関係が渦巻いている。そんな社会環境だからこそ、「魂の教育」が本当に必要なのである。ダーマ信仰に基づき、自己を修め、自己に克ち、他人を生かして自分も生きる道を説く。これが道院長の果たす使命であり、道院だからこそできる人間教育なのである。伝え方には工夫が要るが、道院長の魂は門信徒の魂に必ず響くはずである。

人間としての正しい生き方を説き、社会の平和と発展に貢献することの

外修(肉体)



積極的：托鉢行



消極的：食養



易筋行



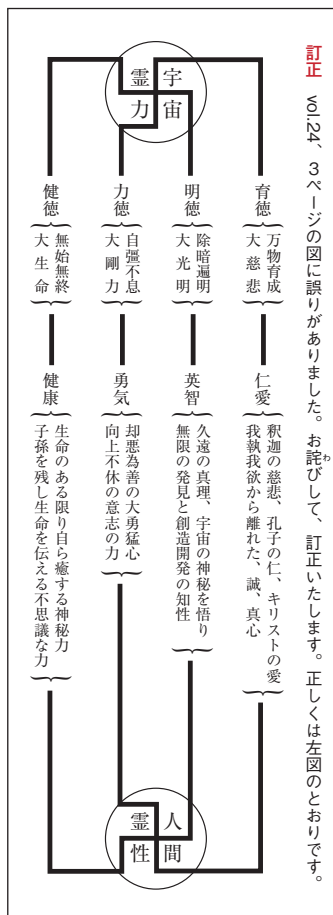
内修(精神)



調息、坐禅(鎮魂行)



問法修学



できるリーダーを育成するための指導者なのである。そのためには「魂の指導者」として人間教育に情熱を注ぐことである。人づくりを通じて社会へ使命を果たしていくことが肝要である。

道院長が最も大切にすべきものは使命であり熱意である。人間教育を通じて、次世代を切り開くリーダーを一人でも多く育成していく使命を果たしていくことである。

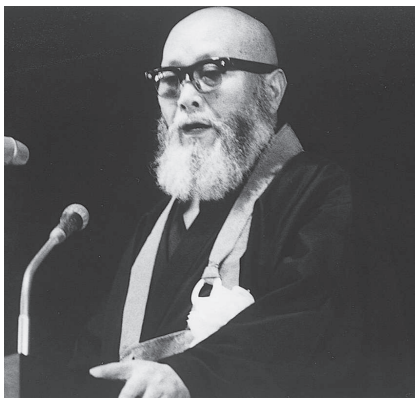
また、道院長は指導者であると同時に修行者でもある。道院長として、釈尊の正しい教え、達磨の遺法、開祖の思想を学ぶことは言うまでもないが、常に社会の出来事に関心を持ち、社会を深く洞察し、時代の流れを大局的に見極める目を養うことは非常に大切である。それは、社会の出来事も宗教もすべて人間に関することであり、繋がっているからである。

したがって道院長は日頃から法話・講話を通じて、時事問題から宗教・科学に至るまで、広く門信徒に投げかけ、問題意識や感性、好奇心といったものを引き出すことを心がけていきたい。

開祖は金剛禅運動の中心的指導者である道院長に対し、次のように訓示された。

「金剛禅の根底に据わるダーマ信仰を確立することによって、人間の尊厳と無限の可能性を自覚し、平素の生活態度と言動などの行動を通じて徳を積み、人格、識見、指導力、統率力を養い、彼らの魂の教師、人生の指導者としての存在を保ち続けるよう精進することである」(1979年度全国指導者特別講習会資料より)

金剛禅師家の代行者である道院長も、一人の修行者として、成長していききたいものである。



開祖語録 ダイジェスト

1976年度
第3次指導者講習
会にて

台風の中、よう帰ってきた。こういうときにこそ諸君の本当の熱意が分かる気がする。

よく言うことだが、ふだんはいろいろ取り繕うことができて、何かあったときその人の姿が出るわけです。ひよつとしたらと予見して、準備もし、考えて行動できる人がいちばんいいんだけど、土壇場になつて、なるようになれ、もう成り行き任せという人もいます。まあ、これはどっちもそれぞれいいところがあります。あ、ちよつと降ったから、ああ、もうやめとこうか、というのが少林寺拳法のリーダーとしてのいちばんいい姿勢です。

諸君は指導者の講習を受けに来た

『教範』をよく読んでほしい

わけだけれども、それぞれの地方の先覚者として、例えば人から「少林寺拳法と空手とどう違うんですか」と聞かれたらどう答える？「空手は瓦を10枚割るけど、少林寺拳法は割らんのや」なんてのがおる(笑)。

これでは困ると思うんですね。

だから少なくともお願いしたいことは、『教範』をよく読んでほしい。これ、私の書いた本です。こんなに分厚くなつたけれども(注・初版は1952年刊、本文140ページ)、増補改訂して厚くなつても内容、本

論は変わらない。しかし自分でいっぱい線を引いたり、書き込みをしています。意を尽くすことが難しく、例えば、たった数行の文章にも、もつと奥に必要なことがいっぱいあるからです。

諸君に理論武装をさせる必要があります、その取り組みをこれから年々強化しようと考えている。金剛禪運動をいっても、釈尊の原始仏教とはどういうものか、これを君らがやらなんだら、本当のリーダーにはなれないんだからな。

清風

vol.25 宗務局長 田村 明

戒と律

われわれにとって「戒」とは何か、「律」とは何かを考えてみた。

「戒」とは、仏教徒が守るべき、自分を律する内面的な道德規範である」とされている。

法句経183に「諸惡莫作、衆善奉行、自淨其意、是諸仏教」がある。少し古い拳士ならおなじみの句である。われわれは「すべて悪しきことをなさず、善きことを実践し、自己の心を淨むること、これ諸々の佛の

教えなり」と聖句で唱えていた。

仏教における善惡の基準はここにあるが、ここでの惡はいわゆる五戒(殺生・偷盜・邪淫・妄語・飲酒)である。五惡といわれた。

仏教の戒の基となるものである。とても現在においては守りきれないものもある。さらに「十惡」があり、人の行為「身・口・意」の三業にそれを分類し、「身」には殺生・偷盜・邪淫、「口」には妄語・綺語・惡口・

兩舌、「意」には貪欲(むさぼり)・瞋恚(いかり)・愚痴がある。特に意の三つは三毒ともいわれ、根本の煩惱とされる。今のわれわれにとってみずからの心の中にある規範を守ることが律であるならばこの三毒を戒め、四摂法(布施・愛語・利行・同事)の実践がすべてであらう。

修行者は、みずからを律し、みずからに厳しくなくてはならない。それが自己確立への道筋であらう。

ことばのちから

今からちょうど100年後の、2112年9月3日は、ドラえもんが子守り用ネコ型ロボットとして誕生した日です。

ドラえもんは、勉強もだめ、スポーツもだめ、ジャンケンさえ勝ったためしがない、そんな臍甲斐ない先祖様の、のび太を大改造するため、のび太の孫の孫(玄孫)が未来から二十世紀に送り出し、面倒を見させることになったそうです。

専攻する生涯スポーツ論とともに、ドラえもんの研究で有名な、富山大学名誉教授の横山泰行先生は「ドラえもんのことば」をことし4月に刊行されました。その中で「ドラえもんには、どう困難を乗り越えればよいかを考えるヒントが詰まっている」として、「行動と学びを促すことば」「陰から支えることば」「互いの信頼を表すことば」「仲間との協調を生むことば」などの六つの視点から、のび太の成長を手助けしたドラえもんのことばを紹介しています。

例えば、「人にできて、君だけにできないなんてあるもんか」と、嫌なことを先延ばしにしてしまうのび太に、のび太と同じ目線で

励ますドラえもんのことばには、偉人の名言にはない癒やしと温かさがあるといいます。子守り用ネコ型ロボットであるドラえもんは、毎日のび太に全神経を集中させ、のび太の発言に対して心から興味や関心を示します。また、のび太のすばらしいアイデアや動植物に対する優しいふるまいに心から共感しつつ、相互信頼を高めていきます。だからこそ、ドラえもんものび太も共に一步一步前進し成長していることを実感することができたのです。

ドラえもんのことばには、私たちの目指す自己確立、自他共楽の修行に通じる共感、信頼、共に成長するといった内容が詰まっています。

さて、釈尊の教団は在家の信者に対して、社会人として守らなければならない徳目として、四摂法ししやうぽうの実践を説いています。

布施 施しあたえること

愛語 慈愛のことばをかけること

利行 他人のためになる行為

同事 他人と協力すること

これらの徳目は今日の家庭や職場、地域社

会における人間関係や団体行動に極めて実効的で社会性を持つものです。四摂法は根本仏教と現代の社会生活を結ぶキーワードであり、生活の中でこの四つの簡素な徳目を実践することは、在家修行者である私たち金剛禅門信徒にとっても適切であると思われます。

ドラえもんのことばこそ四摂法の愛語にあたります。ドラえもんの、時には優しく、時には厳しい愛語により、のび太でさえ変わることができたのです。私たちは身心一如の修行により自己を変革しようとしています。そのためには同志相互の切磋せつさを忘れてはならず、同じ道を進む仲間に対して、愛語の精神で向き合うことが共に成長し合うことに繋がります。また、愛語を素直に受け入れる初生の赤子としての心構えも必要です。

愛語をかけることも一つの行動です。その行動により、変わる人がいます。そのことばを待っている人がいます。

家族や周囲の人々、そして金剛禅の道を歩む同志に、愛語をかけましょう。愛語にはその人の一生を変える力があるのですから。



道



教えを生かす

大村西道院 道院長 坂口 勝浩

我々門信徒にとつての「道」とは何か。

私は金剛禪（開祖）の教えを日常生活や人生に生かすことだと考えております。しかし、私も含め我々は本当に日常生活や人生に生かしているのでしょうか。

まず金剛禪のあり方について確認します。

金剛禪の教えとは力（理知と愛（慈悲））の思想と行動。それが一体の状態こそ、人間の考えや正しい行動のあり方であるという「調和の思想」なのです。人間が調和した状態を保つには、基本理念としての「人、人、人、すべては人の質にある」を念頭に置き、行動の原点は「釈尊の正しい教え」を実践することです。

そして「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」に照らし、「よいことを進んで行動する」ということが金剛禪のあり方の基本であると思います。

また、開祖は原点に帰ることを講習会の中で、「すべての道院長、そのやる気の濃淡の差はあってもほとんど同じ原点から出発しながら、いつしか惰性に流され、あるものは脱落し、あるものは名利に溺れるなど、原点を

風化させている原因がどこにあるのだろうか。釈尊の臨終に際しての最後の言葉は『弟子たちよ、すべてのものは移ろい行く、怠らず努めよ』であつたという。答えはまさにここにある。とりわけ移ろいやすいのが人の心であるから、せめて、志の根源を見失わないために、常に怠らず努めるしかないのである」と教示されております。

我々は本当に金剛禪（開祖）の教えを日常生活や人生に生かしているのか、反省すべき点多いのではないのでしょうか。

東洋古来の魂魄論では、魂はダーマの分霊としての良心と信じ、魄は自我、即ち本能的な意欲や情動を起こす悪い心とみています。我々は自我（悪い心）を抑制し、人が霊止として働きを全うするように日々修行していることも忘れてはならないと思います。

次に行動のあり方について考えてみたいと思います。二つの例を紹介します。

例1…嘆く人生より楽しみの人生3本柱
①「主体性」人間は人頼りにすることが多いが、目的・目標を明確にし、人・物・金の活用を見いだせる人は主体性のある人間といえ

る。

②「現状打破」現状に甘んずる姿勢は現状維持であるが、進歩発展を目指す姿勢は好奇心、向上心旺盛なことで、それは創造性を高めることにつながる。

③「協調性」人間には「食欲、睡眠欲、性欲、物欲、名誉欲」の五欲があり、特に心の欲である「物欲、名誉欲」、これとどう向かい合うかによって自己中心的な人間となるのか協調性のある人間になるのかが決まる。

（能力開発総合研究所）

例2…一人ひとりが当事者意識を持つ

「あなたの国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるかを問うてほしい」――1961年、米国のケネディ大統領就任演説――

我々は今一度、この社会のために、職場のために、また組織のために何ができるのか考えるべきである。「やらされている」とりあえず従っておこうという受け身ではなく「今自分は何をやるべきか」という強い思いが行動につながり、「道」を力強く歩んでいく原動力になると考えます。

ダイジェスト

×



志を つなぐ

vol.10

まつき たけみ 223期生
松木 長實 少法師大範士八段

いちばん大切なのは人間関係、
信頼できる友が多いほど幸せな人生

開祖が東京に見えるたびに二人きりでお話する機会があり、ずいぶん薫陶を受けました。私が労働省に勤めていたことから開祖は労働行政の重要課題を次々質問されました。また、開祖の目は国内問題だけでなく世界にも向いており感服しました。教えの中でも私がいちばん重要だと思うのは、信頼できる人間関係をいかに築くかということです。省庁

の垣根を越えて築いた人間関係は、その後、さまざまな場面で私を助けてくれました。信頼できる人間関係を築く、まさに金剛禅運動です。開祖の特命を受け組織の向上発展のためにひたすら努力してきました。これからも一生青春の気持ちでお役に立ちたいと思っています。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1973年、少林寺拳法実業団全国大会(第1回)にて



ダイジェスト

×



道院長 元気の素

vol.10

たけとよ 武豊みなみ道院
道院長 間瀬 美香(48歳)

「子育て＝人育て」そして自分育て、
指導者になって自分を輝かせよう

——道院長になろうと思ったきっかけは？

「子どもが大好き！」という娘二人を持つ普通の母親が、保育園のママ友からの「うちの子にも少林寺拳法を教えて！」という提案に、「10人くらい集まったらね」と軽い返事をしたことから道院を始めることになりました。

開設にあたってさまざまな障害が

ありましたが、新設許可を得るころには50人ほどが集まり、あとから「道院長」として自覚せざるをえなくなったというのが実状です。しかし、あとからとはいえ目の前の子どもたちのために「やるしかない！」と思い、今は母親以上に道院長として子どもたちを守りたいと思っています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



道院長資格認定研修会

道院長として 一歩踏み出すために

7月20～22日、本山において、道院長資格認定研修会が行われ、10人が受講した。

本研修会は三日間と長く、日程も大変過密なものとなっていた。また、講義や実技のほかに

も、各種のレポートが課され、実技と面接の審査により、道院長としての資質が計られる。そのような中、受講者は少しでも

多くのことを学び取ってほしいと、熱心に耳を傾け、積極的に講師に質問をして道院を運営するにあたって必要な知識や考え方、技能の習得に励んだ。

研修中、受講者を代表して3人が道院長になる意気込みを発表し、発表者の真剣な思いに、聞いていた者が思わず涙ぐむ場面が見られた。



研修会の最後には、浦田武尚

代表が受講者に労いの言葉をかけながら、「一つ一つ障害をクリアして、道院長としての目的を果たせるよう頑張っていってほしい」と激励した。

なお、早い者は10月より運営許可となり、道院長としての一歩を踏み出すことになる。

(富田雅志)

お知らせ…今回の道院長資格認定研修会は2013年2月1～3日です。人づくりの志を持って道院長を目指している方はぜひ受講ください。

帰山

拳士のふるさと 本場で過ごす1日

8月26日、夏の帰山行事が開催され、42所属814人が帰山した。本山は、すべての拳士のふるさとである。仁王門をくぐるとき、「お帰りなさい」と声をかけられた拳士たちの表情には、道院とは異なる雰囲気への驚きと、拳士であることへの誇りと自覚がうかがえた。

一般拳士は見習・級拳士と有段者で会場を分け、基本や法形修練を行った。また、有段者に対しては質疑応答も行われ、指導員に手を取ってもらいながら日頃の疑問を払拭させていた。

一方、少年部は学年別の3グループに分かれて修練し、各グループでの修練の成果を、他のグループや保護者に対して発表した。真剣なまなざしで発表する拳士と、優しく見守る保護者。道場は温かな雰囲気包まれ、本山で技術を披露するとい

う帰山の成果を全員で創り上げることができた。

このほかにも、保護者の方にも少しでも少林寺拳法の教えやあり方を理解してもらい、子育てや子どもの教育に生かすための保護者対象のプログラムが行われ、演武見学では、職員による組演武や法形演武に加え、運用法の修練方法について紹介した。拳士・保護者にとって、刺激を受けた時間となった。

閉会式では、前日の昇格考試の合格者に対し許可状が授与され、日程が終了してからも、帰山者たちは全道場や開祖霊廟、大雁塔の見学など、本山のすべてを心に刻んでそれぞれの帰路についた。

(小林博紀)

お知らせ…これからも、一人でも多くの拳士が本山に帰山されますことを心よりお待ちしております。今年度の帰山行事の日程は、11月25日、2013年2月24日、3月17日です。各開催日の2週間前までの申し込みが可能です。

僧階補任講習(少法師)

少法師としての使命 と責任感を高める

9月17日、本山において僧階補任講習(少法師)が開催され、4人が受講した。

講師、受講者共に法衣を身にまとって講習が行われたが、自然と醸し出される雰囲気を実に厳粛であり、少法師という資格の重みを感じられた。

各受講者が、地域での実践活動を報告する「布教報告」では、聞く側にとっても今後の参考になる報告がなされた。また、講師とともに教区の役割について議論をする「布教討議」では、教区活動の現状を踏まえ、今後より活性化させるための取り組みについて展開された。講習日程としては半日という短さではあるが、少法師に課せられる使命と責任、そして金剛禪布教への意欲を高めることのできる、非常に濃密な講習となった。

閉講式では、浦田武尚代表より僧階辞令と緒子が授与され、「これからは、少法師としての価値を高め、地域においても認められる存在となり、活躍していただきたい」と、激励の言葉が添えられた。

(小林博紀)

東京都教区研修会

金剛禪総本山少林寺東京別院にて、講師に矢島隆禪総代(関東地区担当)、秋吉好美名誉本山委員を招いて東京都教区研修会を開催しました。少導師から大導師を対象に40人(埼玉県2人、神奈川県2人を含む)が参加しました。

鎮魂行(教典唱和)の後、講義1が始まりました。矢島総代は金剛禪の各儀式行事について説明され、布教の意義では、「信奉」の説明から、「一日一人一説」を続けることの大切さ、「金剛禪修行者のあり方」についても触れました。講義2では、金剛禪が「釈尊の正しい教えを現代に生かす」教えであるとはどういうことかについて、矢島総代が釈尊生誕地へ行ったときの感想など交えて話をされ、その上で開祖がなぜ少林寺拳法を創られたか、金剛禪と少林寺拳法について、私たちの生き方についての説明をされました。

易筋行では、秋吉名誉本山委員(天範士八段)により五段科目基本法形修練を行いました。一つ一つ丁寧に指導いただき、参加した拳士も大変満足顔でした。

(東京都教区事務局)

僧階昇任者

権中導師

■2012年8月1日付

名古屋 忠弘(札幌あいの里道院)

原 正江(群馬多々良道院)

小栗 隆児(市原姉崎道院)

太田 知希(小坂井道院)

梅澤 武(愛知梅坪道院)

森本 孝幸(名古屋太子道院)

和田 和人(大阪南百済道院)

嶋立 幸司(高槻南道院)

多賀 俊幸(倉敷北道院)

岡尾 浩気(高知日章道院)

稲垣 恵章(渋谷笹塚道院)

11月の本山行事

17日(土)～18日(日)

少年部指導講習会

18日(日)

僧階補任講習(大導師・中導師)

25日(日) 帰山

お布施

▷奥村真邦京都乙訓道院長、北野哲夫小栗栖道院長、平井秀典伏見桃山道院長、大森久雄花園大学監督、青山誠伏見道院長(西野潤元伏見道院道院長の七回忌法要より)

30,000円

▷茂木俊昭(本山見学)

3,000円

▷照井哲次千葉松尾道院顧問

50,000円

8月帰山

▷周南南道院

10,000円

▷大阪白鷺道院、大阪白鷺スポーツ少年団、堺仁徳少年団

100,000円

▷名古屋東道院

100,000円

▷滋賀伊吹道院

30,000円

▷千葉富来田道院(25周年記念帰山)

25,000円

▷加賀梯道院、かけはし会

20,000円

▷滋賀近江道院(15周年記念帰山)

30,000円

▷東京五市市道院

30,000円

▷本部道院

50,000円

9月帰山

▷亀有道院

10,000円

▷金沢卯辰山道院、金沢卯辰山道院拳士会

20,000円

2012年度少年部指導講習会のご案内

本山において、少年部指導講習会を開催いたします。テーマは、『新たな発見、そして共に創る楽しみ』です。本講習会は、参加者一人ひとりが問題意識を高め、互いによりよい指導法を求め合い、共にアイデアを出し合い、共に創っていく講習会です。各プログラムを通して、新たな気づきを得て、共に考えて答えを見いだしていくことの楽しさを実感して、それを少年部指導の現場に役立てていきましょう。

少年部指導に携わる方のみならず、青少年の育成に興味のある方、自己の研鑽(ひんさん)に意欲のある方はぜひご参加ください。

お申し込み方法、その他詳細につきましては、マイページの「お知らせ画面」をご覧ください。



日時：11月17日(土)8：45開講～18日(日)15：00終了予定

対象：16歳以上かつ初段以上の現役拳士

2013年新春法会 2013年1月13日(日)

本山で行われる新年最初の行事。

一年の精進を誓い、元気に初稽古を行います。

ぜひご参加ください。

2013年度 金剛禅総本山少林寺 職員募集のお知らせ

金剛禅総本山少林寺では、2013年度職員を募集しています。

“職場という日常生活の中で自己確立、自他共楽を実施しながら、人間力を高めませんか？”

【仕事内容】 各種行事の運営、事務全般

【公募内容】

職 種	事務職
人 数	2 名
年 齢	20歳～25歳(位)まで
学 歴	高校卒業以上
資 格	少林寺拳法三段以上
特 記	パソコンがある程度できる方

【採用審査】

公募締切日：公募人数になりしだい、締め切らせていただきます。

選考方法：第一次審査…書類審査

第二次審査…面接、技術、筆記試験

提出書類：履歴書、卒業または見込証明書(コピー可)、成績証明書、応募の動機と決意(400字詰原稿用紙3枚)

試 験 日：追って連絡します。

勤 務 地：金剛禅総本山少林寺 本山(香川県)

連絡先：総務部総務課 中山享世 Tel.0877-33-1010(内線171) ※詳しくは担当までお問い合わせください。見学・体験も可能です。

編集後記 ▶▶11月、紅葉が美しく山々を覆う、まもなく来る冬支度が始まる。先の見えない経済状況は一向に前進しない日々が続く。▶しかし、われわれの願いであり、開祖の志である「人づくりによる国づくり」平和で豊かな社会づくりの実現へ、拳士一人ひとり^{つな}は前進し続けていると願う。タテとヨコの繋がりを生かし、山々を覆い尽くすごときの団結が、今、必要と思う。▶「道院」を拠点に地域の特性、特色を生かしながら、震災復興支援、金剛禅布教に邁進していきたい。(お)

表紙 ▶河合 修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。ホームページは「写真家 河合修」で検索！
名古屋千種道院、中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん | vol. 25
金剛禅総本山少林寺広報誌 2012 霜月・師走

2012年11月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：浦田武尚

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：大澤 隆

企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITY によるライセンス事業の収益金が活用されています。

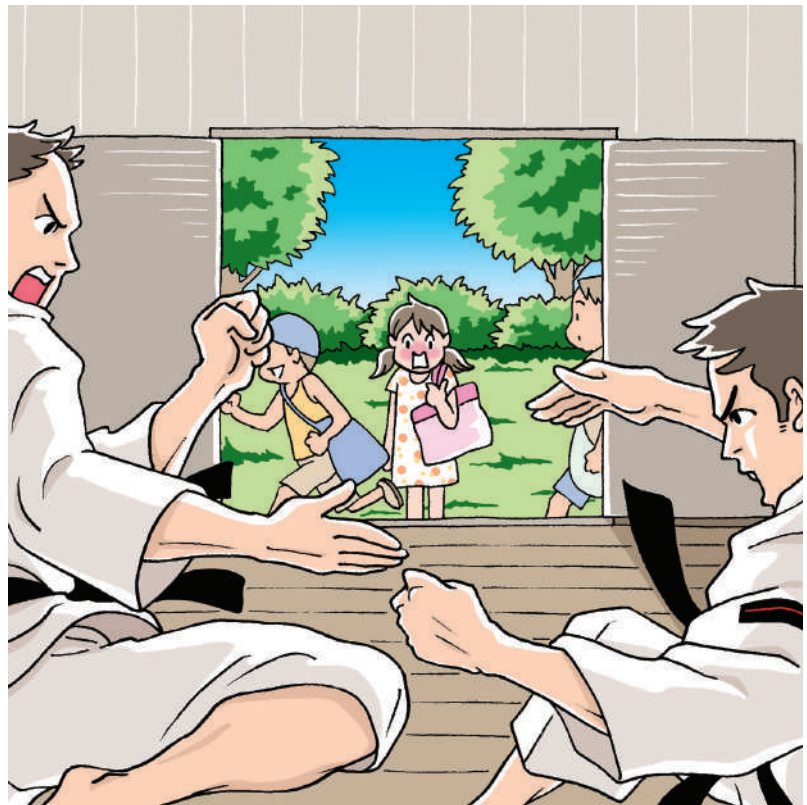
広報誌『あ・うん』追加発送について ◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え
一期一笑



イラスト／大原由軌子

宮崎霧島道院 後沢 晃子

少林寺拳法に出会って

私が初めて少林寺拳法を目にしたのは、小学5年の夏でした。

市民プールの横にある大きな体育館で、胸章を付けた道衣姿の拳士たちが汗だくで練習をしていました。私は子どものときから、レスリングやボクシングなどの映像を見ると目を背けてしまうのですが、そのときばかりは彼らの練習をしばらく眺めていました。市民プールに通うたびに目にする彼らのことが気になって目が離せなかったのは、きっと、拳士たちの自己の中に真理を求める姿が美しく見えたからでしょう。

それから四半世紀、私は昨年入門、現在5級です。家族5人で練習しています。

少林寺拳法は肉体的に強くなることだけが目的の武道ではなく、社会人としての正しい行動ができる心を同時に修練できることが素晴らしいと思っています。私もあのとときの拳士たちのように、誰かの目に留まるような拳士になりたいと思います。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuo Ken, Katate Maki Nuki



宗門の行としての少林寺拳法

りゅうおうけん かたて まきぬき
龍王拳 片手巻抜

かぎ て しゅほう あて み よせあし
鉤手守法と当身ののち、寄足をしつつ、右手を相手の手首に巻きつかせるようにして肘を入れると、抜くことができる。相手が手首を抑え込むような攻撃をしてきた場合は、攻撃に抗うこと^{あらが}なく半歩下がるか、体をやや開いていなすことで、相手の体勢を崩しつつ楽に抜くことができる。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：富田雅志 大拳士五段 攻者：永安正樹 准範士六段



SHORINJIKEMPO